

インターンシップレポート（日本語訳）

はじめに

このレポートは、2024年6月24日から2024年7月19日まで、東京にあるオーシャン総合法律事務所で行われた私のインターンシップの概要を記したものです。私は、同事務所の弁護士である湯ノ口さんに指導を受けました。

ミッションと観測

オフィス内での主な仕事は、家族法、会社法、フランスのビザの種類など、フランスの法律問題を調べることでした。様々な法律や判例を調べて報告書を作成して、湯ノ口さんにメールで送りました。

また、幸運なことに、オフィス外でも弁護士に同行することができました。以下は、私が訪問できた場所の詳細です。

- 6月24日：依頼者との打ち合わせのため拘置所を訪問
- 6月25日：証人尋問のため東京地方裁判所を訪問
- 6月27日：依頼者宅を訪問
- 6月28日：依頼者の尋問のために裁判所を訪問
- 7月4日：入国管理局を訪問
- 7月5日：証人尋問のため横浜地方裁判所を訪問
- 7月9日：証人尋問のため東京地方裁判所を訪問
- 7月10日：弁論準備期日のためさいたま地裁川越支部を訪問。

法廷の内外で弁護士の仕事について多くのことを知り、法律事務所で働くということがとても大変な仕事であることを知りました。依頼者の自宅から各裁判所、入国管理局まで、一日の間に弁護士がどれだけ動き回らなければならないかということが分かり驚きました。この仕事には、多くの体力と冷静さが要求されるのです。また、日本の法制度や民法の歴史についても学びました。

能力と困難であったこと

このインターンシップでは、駆使して発展させていくべき能力がいくつかありました。1つ目は、情報をリサーチし、それを簡潔にまとめる能力です。私は、レポートを書くときに要点を端的にまとめることを学ぶ必要がありました。

2つ目は適応力と観察力です。第一に、日本には日本独自のやり方があり、それは時にフランスとは異なります。第二に、オーシャン綜合法律事務所は国際的な案件を扱っているため、さまざまな国のクライアントに会うことがあり、それに応じてどのように振る舞うかが重要でした。裁判所では、裁判官が法廷に入ってきたときに立ち上がり、お辞儀をするタイミングを知ることが重要な学習の一部となりました。

結び

このインターンシップは、私にとって初めての法律事務所での仕事であり、私の心にずっと残り続けることでしょう。実際の弁護士の仕事において、法律がどのように適用されるのかを学ぶことができました。これからも法律の勉強を続けたいという意欲が湧き、将来への希望も明確になりました。